

くすりと健康のはなし

薬包紙

第128回

会長

飛騨市薬剤師会
橋本 尚子

今回は子供さんのお薬についてのお話です。

例えば、子供さんに処方される抗生物質、舐めてみたことはありませんか？フルーツの風味付けがしてありますが、実は苦みのあるものがあり、飲み終えた後に舌の奥に苦みが残ってしまうことがあります。

大人がちよつと舐めた量の何十倍も、子供さんたちは頑張って服用しています。服用時に混ぜると、コーティングが剥がれてさらに苦みを増すものもあります。混ぜたものが嫌いになるなんてこともあります。上手に服用できた時はたくさん褒めてあげてくださいね。

最近はこの抗生物質、処方されなくなってきました。抗生物質の効かない耐性菌を増やさないようにするためです。

抗生物質はウイルスには効果がありません。どんな時に処方されるかと言いますと、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎、溶連菌感染等の細菌が原因と考えられる場合です。風邪の原因はウイルスなので抗生物質は効果がありません。治ったとしたら、

子供さんのお薬との付き合い方、悩んでいませんか？

それは子供さんの体が頑張った自然治癒力です。

抗生物質が処方された際には、たとえ症状が良くなっても体内には原因菌が残っている可能性があります。やめてしまうと再び原因菌が増殖してしまう恐れがあるので、処方された日数分は飲み切ってくださいね。

さて、お薬の飲ませ方についてです。嫌がって薬を飲んでくれないという相談を受けたことがあります。方法としては、次の3つがあります。

- ①少量のお水で溶いてスプーンやスポイドで少しずつ流し込む。
- ②回子状に練ったものを頬裏側に塗って水、ぬるま湯を飲ませる。
- ③服薬補助ゼリーを使用する。

どうしても飲めない場合、食べられる年齢であればチョコなど甘味や味が濃いものに混ぜるのもよいでしょう。混ぜて良いもの、悪いもの、いろんなこと、薬剤師に相談してくださいね。大切なことですが、食べ合わせ・飲み合わせチェック等のため、お薬手帳をお忘れなく。